

『大事にするとは』

先日、ある中学校の取組がテレビで紹介されていました。インタビューに応じた校長先生の次の言葉に共感を覚えました。

「生徒に手間をかけ過ぎると、生徒が失敗した時、その責任を人のせいにするようになります。生徒が転ばないように転ばないようにと、大人が気遣いし過ぎることで、生徒自身が自分で決定して行動する権利を奪ってしまうのです」

また、数年前に読んだあるコラムには、

「近年、子どもの成長に必要な『ハードル』が、少なくなったり、低くなりすぎたり、時には撤去されている学習場面が多くなってきているのではないか。家庭においても、子どもに親が、安易に手を差し伸べ過ぎではないか」

これについても「その通りだな」と共感していました。

上記二つの見解は、「子どもの成長にとって大事なことを忘れていませんか？」という問題提起と捉えています。そして、「子どもに判断の機会を与えない教育」「子どもに失敗をさせない教育」（現状が全てそうではないのですが）に対して、危惧を抱かれているのだと思います。

子育てにおいて、「子どもを大事にする」という意識を持つことは当然のことですが、「大事にし過ぎる」のは、子どもの成長の妨げになります。極端な例えですが、大人が何から何までお膳立てし、子どもは“おいしいところ”だけを経験する。これで、子どもの何が育つのでしょうか。「楽しかった」という、苦労しないで得た快感を味わわせているだけではないかなと推測します。

厳しい言い方をしましたが、子どもの時に、失敗し挫折し、それを乗り越えていく経験をさせておく。将来、遭遇するであろう様々な困難にぶつかった時に、何とか自分で克服し乗り越えて、たくましく生きていけるよう、準備をしておくことが必要なのです。

子どもの先回りをして、失敗しないように、つまづかないようにと、手を出したり気をつかい過ぎたりすることは、子どもから、「苦労して困難を乗り越える」という成長の機会を奪うことにつながります。子どもの時に、「悔しい。つらい。苦しい」という状況が生じる体験をさせ、精神的に落ち込んだとしても、やがて回復し再び前を向いて歩み出す経験が必要なのです。

生きていく上で、“自分に自信を持つ”ということはとても大事なことです。そのためには、成功体験は、絶対に必要です。成功体験を通して、自己肯定感が向上し、その繰り返

返しから自分に自信を持てるようになり、前向きに生きる意欲が育ちます。

ですが、成功体験ばかりではダメなのです。「思い通りにならなかった」時に、自信を失い、心が回復できずに、しまいには「自分はダメだ。生きている価値がない」という危機的な状況に陥るケースはけっこうあります。

子どもの時に、「失敗をさせ、苦しくつらい状況を乗り越えさせる」ことや「困難な状況に追い込み、それを乗り越えさせて、成就感を味わわせる」という経験もちゃんとさせておくことが、“子どもを本当に大事にすること”だと考えています。

さて、これらの経験をさせる場合、まわりの大人が、見通しや意図をちゃんと持っていることが大事です。何も考えずに、成り行きで失敗させたとか、気が付いたら困難な状況になってしまったとかでは意味がありません。また、どのタイミングで手を差し伸べるのかについても配慮が必要です。

次の記述は、私が若い頃に受講した研修講座の資料からの抜粋です。

◇児童生徒の健全な発達を促す15の課題 — 発達課題と指導上の留意事項 —

(※①幼児、②小学校低学年児、③小学校高学年児、④中学生、⑤高校生の5つの段階があります)

【小学校低学年児】

発達課題：失敗と成功の経験のつり合いをとる。(他に2つあります)

留意事項

- ・家庭～適度に失敗やつまずきの経験を与え、やり直すことや気持ちを切り替えて工夫することなどを体験させる。
- ・学校～成功と失敗の経験とが、つり合いのとれた状態になるように仕向ける。特に、歯を食いしばって耐えたり、何日もかけてつくりあげたり、やり直してたどりつくことなどを体験させる。

【小学校高学年児】

発達課題：やり直す機会を適度に設ける。(他に2つあります)

- ・家庭～日常生活の中に、主体的に行うことができるような場をたくさん設ける。自分の中に、しっかりとした考えを持って行動し、自分で立てた目当てを目指して集中する体験をさせる。
- ・学校～苦心を重ねて物事をする事のすべや、耐えてやり遂げた成就感、やり直して目標を達成した感動を味わわせる。

新年度当初に開催された教育関係の様々な会議・研修会において、その代表の方のご挨拶の冒頭にほぼ共通する文言が「急激に変化する社会を生きぬくために」です。

現状でも、“何が起るか、何がどうなるのか”先がなかなか読めないとは思いますが、さらに困難で厳しい時代の到来が予想されるのです。

子どもを育てる上で、そこに関わる大人は、“失敗する場面や困難な場面をいかに設定していくか”ということや“自分で決めて行動し、その結果に責任を持つ”状況をいかにつくるかについて真剣に考えていくことがとても大事だと思っています。